

技術士会 みえ

代表幹事 **春田 要一**
 〒511-0828 桑名市立花町2-13
 春田技術士事務所内
 TEL 0594-22-7087
 FAX 0594-22-7087

巻頭言

2011年10月13日から15日にかけて日韓技術士会議(韓国 大邱市)に参加させて頂きました。今回「自然と人工災害対策における技術士の役割」のテーマのもと、基調講演および分科会が開催され、活発な報告や討議が行われました。今回、約300人の参加者があり、日本からは124名が参加しました。私自身は初の訪韓であり、その中で私なりに感じたことを、ご報告させていただきます。

私は、三重県技術士会と併せて、中部青年技術士会に所属しており、来年、名古屋で開催される日韓技術士会議の実行委員を担当しています。日常の業務でも、東南アジア諸国に展開する生産拠点の技術支援を担当しており、多少なりとも日韓技術士会議の発展に貢献できるのではと思い、参加させていたっている次第です。今回の私の参加目的は、来年、名古屋で開催される日韓技術士会議への誘致活動と来年のための予習でした。日韓技術士会議はどんな雰囲気なのか？どんな人たちなのか？自分は何をすればよいのか？を知るために、実際に現地へ飛び込み、見て感じてきました。

開催期間中は、サッカー親善試合・日韓女性技術士交流会・ウェルカムパーティー・基調講演・分科会発表・レディスツアー・晩餐会・テクニカルツアーとたくさんの企画が準備されており、参加者を退屈させない素晴らしいものでした。会議では、主に震災を中心に日韓双方より質の高い技術報告がされました。夕食時には素晴らしい歓待を受け、いつの間にか韓国技術士の方々とも打ち解け、来年への良い足がかりができたと思います。異文化に触れ、人と交流する面で、通常の出張業務や観光より遥かに深く経験することができました。個人的感想を率直に言えば、得るものが多くしっかり予習でき、かつ自分自身、存分に楽しませてもらう事ができたと感じています。

私が一番強く感じ、感心した事は、韓国の皆様の

「おもてなし」の気持ちです。韓国技術士の皆様から、「よくぞ、遠くから来てくれた。」と、随所で丁寧な歓待を受け、とても大事にされていると感じることができました。韓国の方々の「おもてなし」のおかげで、会期中は何の不自由もなく、とても快適に過ごす事ができました。歓待の気持ちを体で感じ、その心配りに感服させていただきました。これらのおもてなしを受けた結果、私自身は、韓国という国に親近感と仲間意識のようなものができ、国全体の印象や見る目が大きく変化しました。

「おもてなし」一つひとつは些細な事ですが、その対応一つで、その国や組織そのものの印象が決まってしまう。この先、仲間として付き合うのか、そうでないかが決まってしまう。人の繋がりとは、そういうものだと、あらためて実感させていただいた良い経験を得ました。そして、これは技術士にとっても、とても大事な要素であると考えさせられました。

帰国後、韓国での体験から「おもてなし」に興味を抱き、本当の意味は何か？その本質は何かについて、深く掘り下げてみました。辞書による意味は「心をこめて客の世話をする。」「厚遇、歓待、心のこもったサービス」とあります。しかし、まだ腹におちない。調べていくうちに、興味深い言葉を引き当てました。

「異人歓待」 “遠来の客人を神の化身とみなして歓待する風習”という意味です。「神の化身とみなし・・・」大げさかも知れませんが、今回の日韓技術士会で感じた感覚は、まさにこの言葉でした。おそらく韓国でも、同じような言葉・文化があるのでしょう。この言葉を理念に韓国の方々には、我々を迎えてくれたの



三重県技術士会幹事
土性 弘明
 (電気電子部門)

ではないかと思えます。日本の歌手は、「お客様は神様です」とおっしゃられていました。意味には色々な捉え方がありますが、この言葉の本質も私は、今まで理解できていなかったと思えます。しかし今回、神というキーワードで2点が繋がり、おもてなしの本質は「神の化身とみなし歓待する。」ここにあると、腹におちるものを感じました。そして、これは顧客満足そのものであると理解しました。日頃の仕事や技術士の立場に当てはめてみると、そのまま顧客満足へと繋がります。相手の立場を考え、独りよがりにならない提案。相手の求めているものは何か、真剣に考えてみる。そして少しずつ信頼を得ていく。これはまさに技術士の真骨頂と言えるのではないのでしょうか。技術士の役割も「おもてなし」が重要であることを、あらためて勉強させていただきました。

さて来年は、我々が韓国の皆様をおもてなしする番です。我々の対応一つで「日本」・「中部」そして「日本技術士会」の印象そのものになってしまいます。せっかく遠方より来ていただく皆様に、日本や中部技術士会、そして三重県技術士会は素晴らしいということ、体で感じていただきたい。日本のおもてなし文化を知っていただき、韓国に帰った際に、「日本は素晴らしい」と言っていただけのような、おもてなし、「異人歓待」をやっていければと思う次第です。

今回の韓国 大邱派遣に関し、三重県技術士会からご支援を頂き、厚くお礼を申し上げます。ご支援を無駄にしないよう、来年の日韓技術士会議、名古屋大会を盛り上げていきたいと思えます。

以 上



平成23年度第2回役員会

日時 ; 平成23年7月9日(土)

会場 ; ホテルザグランコート津西

出席者 ; 春田・伊藤(博)・竹居・橋川・堀・有我・平田・池田(記) (平田氏は次期代表幹事候補として出席)

[議事内容]

1. 理事承認の件

- 平成23年6月30日に経団連会館(国際会議場)で実施された本部定時総会にて、選挙で当選した理事が承認された。これにより、現本会代表幹事である春田氏が理事に就任された。
- 同日午前に行われた役員就任予定者の会合にて、会長として内村氏が選任され、同日の臨時理事会にて、清水氏(上下水道)・小林氏(電気電子)・末利氏(近畿・化学)が副会長として内村会長より指名され、また各種委員長の指名もあり合わせて承認された。

2. 代表幹事候補選出の件

- 平田賢太郎氏(化学)を三重県技術士会の次期代表幹事候補とする旨、本役員会にて合意された。

3. 公益社団法人への移行の件 (三重県技術士会の今後のあり方について)

- 平成23年3月29日に日本技術士会が公益認定を受け、4月11日付けにて公益社団法人に登録された。これに伴い、7月15日より地域本部制が導入され、現中部支部は中部本部となる。
- この移行により、各道府県は、新本部に従属する支部として活動することを選択できる。今後の三重県技術士会のあり方について議論した。なお、今後、方向性を2年間で確定する必要がある。
- 全国大会終了後、ベクトルの低下もあり、三重県技術士会としての魅力作りが必要である。特に、会員個人の仕事増に繋がるような実益を兼ねた活動が必要である。外部に発信できるワーキンググループ活動やテクノロジーカフェ(仮称)の設置、三重県新知事が打ち出した「三重県営業本部」と連携する案、防災・エネルギーなどの注目分野で外部と協

働する案、中小企業支援を受託推進する案、地域相談窓口への参画などが出された。今後2年間で更に検討を行う。(「三重県営業本部」; 三重県の魅力ある商品等の認知度向上と販売促進等を推進するため、三重県鈴木新知事が打ち出した三重県のPR策)

4. ワーキンググループ及びテクノロジーカフェ(仮称)の検討

- ・ 三重県技術士会の魅力作りの一つとして、IT研究会(仮称)とテクノロジーカレッジ(仮称)の検討を行うことになった。IT研究会は橋川氏にて、テクノロジーカレッジは伊藤(博)氏にて、まずは名称を含めた構想作りから始める。テクノロジーカレッジは、11月・12月頃に第1回を開催できる目標とし、三重県からの助成金の可能性を含めて検討を行う。

5. 次回見学会の件

- ・ 次回見学会は9月初旬に行う予定で、行き先は桑名市の日本ハム・愛知県弥富市のM式水耕研究所となった。

6. ホームページ更新の件

- ・ 容量アップを含めた本会のホームページ更新を土性幹事にて検討している旨、春田代表幹事より話があった。

7. その他

- ・ 現在の本会顧問である三重大学の妹尾名誉教授が岡山に移動されることになり、妹尾先生は今年度で退任していただくことにした。
- ・ 三重県教育委員会が理科支援を強化する方針とのこと。費用収入面を含め、今後の動向を見ながら参画の必要性を検討していくことになった。

平成23年度第3回役員会

日時：平成23年10月22日(土)

場所：じばさん三重(四日市)

出席者：春田要一・片山克武・竹居信幸・伊藤博・池田和人・平田賢太郎・堀豊

【議事内容】

1. 公益法人認定による動向

(9/15 東京統括本部 地域本部推薦理事による打合せ報告/春田理事)

2. 平成24年度の運営方針について

基本方針案(平田氏より)の説明があり、次回役員会までにまとめる。

3. 平成24年度幹事について

幹事案の検討を行った。

4. 次回見学会の選定

津以北で2か所(下水道関係)ほどを予定している。

5. 新規WGの進捗状況

IT研究会：会員向け。橋川氏提案の通り、例会時30分程度をIT関連のテーマを設ける。(当面橋川氏にテーマを選定してもらう)

みえテクノロジーカレッジ：発表者、場所(喫茶店等定着場所)、PR(広報・情報誌・メール等)方法等、伊藤氏に案を出していただく。

6. 新ホームページの件

会報はホームページで一般公開されることを前提で原稿を作成する。広報幹事より近況報告を依頼するときに公開されることを前提に記載することを周知していただく。

なお、中部本部ホームページとリンクするようにする(現在は旧URLとなっている)。

7. その他

全国大会参加者2名に助成金各2万円、日韓技術士会議参加者2名に助成金各2万円を支給することが決定された。

会 員 近 況 報 告

笠原敬男（化学部門）

三重県技術士会の皆様、こんにちは。2011年10月に入会した、技術士補（化学部門）の笠原敬男と申します。まずは私の自己紹介をさせていただきます。

出身は東日本大震災のあった福島県福島市出身です。幸い家族、実家は無事で、時折電話で話したり、帰省した時の何気ないひと時がとても貴重に思うようになりました。大学、大学院では無機化学を専攻し、技術派遣の会社に就職。神奈川の半導体成膜装置メーカーでプラズマCVDでの成膜プロセスの業務に1年弱携わりました。しかし、リーマンショックで派遣切りに遭い、約半年程社内でも週1-3回研修を受けるだけという我慢の時期が続きました。給与も約6割程度と厳しい状況の中、社内の資格報奨金制度の対象となっていた技術士補に挑戦するという大きな目標を立て、一次試験に臨み、運良く合格を頂きました。その直後、燃料電池自動車の水素タンク的设计・評価の業務の仕事を受け、愛知へ。そこで堀技術士にお声にかけて頂いて以降、化学部会東海支部、青年技術士会などの例会に参加させて頂いております。一年半経ち、三重での半導体業務の紹介を受け、今年9月より、半導体製造ラインの技術係として生産安定のため日々業務に取り組んでおります。

技術士会でお会いする方々と交流させて頂いて、非常に刺激を受けております。知識の深さはもちろんのこと、知的好奇心旺盛なこと、ただの本の知識ではなく自分の考えは、技術士としての意見はどうなのか、といった、生きた知識を追及する姿勢は経験の浅い私にとって、圧倒されております。最初は私の様な者が居ていいのだろうか？という弱気な考えを持ったこともありますが、リーマンショックで挫けず自己研鑽をした成果だと捉え、一日でも早く立派な技術者となり、社会に貢献していきたいと思っております。まだまだ未熟な点もあり、ご迷惑をおかけしますが、どうぞよろしくお願い致します。



紀藤善男（建設部門）

私にとっては7年目となる近況報告となります。前回は地方新聞に業務上の処理についての非難が集中的に記載されたことについて、その理不尽さに憤りを吐露した文章にしたように記憶していません。今回投稿を依頼される書くことの無さに戸惑ったところですが、寺田さんより内容については何でもいからとのでしたので筆を執ることにした次第です。

今年で県を退職して5年目となりますが、退職後間もなく長男、長女が結婚しそれぞれ一昨年、今年に子供が生まれ二人の孫を持つ『おじいさん』となった次第です。子供の結婚、出産を含めて必ずしも順調に推移してきたとは言えないかもしれませんが、一般的な変化の中に身を置き過ごせたことに感謝に近い念を持っている次第です。

そんな中で、つい最近飲み友達と言える先輩が亡くなりました。二人とも日本酒が好きなこともあってカウマが合っていたのかもしれませんが、ところが長女が出産で家の方に帰ってきていたこともあって、半年ほど飲む機会のないままでの死でした。飲みの肴に子供のことや、これからの老後のことを、どう考えている？どうするつもり？など話していたこともありましたが、長女も出産を終え帰って行ったので、また声掛けをして飲もうかと思っていた矢先での死でした。

葬儀でその死に顔を拝んで、人の死のあつけなさをこれほど感じたことはありませんでした。Mさんの死に接し、死への準備もさることながら、少し前にテレビで、すでに故人となられた佐藤忠良さん（画家？）が、『人はどのように、どれほど深くなりうるかということ。』と言っておられた言葉が思い返された次第です。

『Mさんご苦労さまでした。あなたの生き方は間違いなく立派なものだったとおもいます。さようなら。』



桑名是成（建設/総合技術監理部門）

三重兼技術士会会員の
方々には、大変ご無沙汰
しています。建設部門の
桑名是成です。三重県に
就職し20年以上が過ぎ、
折り返し点を過ぎてしま
いました。また、三重県
技術士会にお世話になり、



10年近くが経過しました。この10年間は、鈴鹿建設事務所、四日市の高速道北勢プロジェクト、県庁道路整備室そして四日市建設事務所と北勢地区中心の職場でしたが、本年4月からは尾鷲建設事務所に勤務しています。

今年は7月の6号、9月の12号・15号と台風の当たり年のようで、県南部は大きな被害を受けました。12月16日ようやく災害査定が完了し、現在、工事発注に向け忙しい日々を送っています。

写真は、9月1日～5日の12号台風で被災した、一般国道311号尾鷲市三木里町地内の路側崩壊の様子です。（写真1）2kmほど離れた、対岸からも崩壊が確認できます。（写真2）この被災により、三木里・古江間が通行止めとなりましたが、両町間はスクールバスが運行されるなど密接な関係にあり、早期の復旧が望まれていました。

このため、応急工事により暫定的に1車線のみ供用し、その後、本工事を実施し2車線を確保することとしました。応急工事は残存している未崩壊部の路面を利用し、ロックボルトにより法面の安全率を向上させ、モルタル吹付により雨水の浸透による風化を防止し、10月上旬には片側1車の交互通行により供用を図ることができました。

また、本工事施工にあたっては応急工事施工面に影響を与えない工法として、軽量盛土工法による施工を予定しています。早期の全面復旧にむけ努力してまいりたいと思っています。以上、取り留めのない文章で恐縮ですが、私の近況報告とさせていただきます。



写真1



写真2

山川和志（環境部門）

三重県技術士会に入会
させて頂いてから早五年
が経ち、私も二人の子を
持つ親となりました。子
供の成長は早いもので、
親の私はこの五年、何の
成長もできてないような
気がします。



会社に勤め始めてから八年が経ち、2011年10月に四日市から松阪へ転勤となりました。片道2時間という通勤にはなかなか耐えられないものがありますが、子供の笑顔に支えられて何とか通っています。

松阪では主に石綿の業務に携わるようになりまして、最近ではマスコミに石綿が登場しなくなりましたが、石綿は古代エジプトでミイラを包む布として、また日本では『竹取物語』に登場する、火にくべても燃えない「火鼠の皮衣」のモデルとしてなど、古くから耐久性・耐熱性・耐薬品性・電気絶縁性などの特性があり、また安価なことから「夢の天然鉱物」として重宝されてきました。

しかし近年、石綿肺・肺ガン・中皮腫など疾病の原因物質である事が明らかになり、現在流通は禁止されていますが、1995年に阪神大震災で被災された方々が医学的見地により肺ガンの発症が恐らく2015年頃になるだろうと考えられ、また石綿を含む建築物の解体が2020年から2040年頃にピークを迎えると見込まれる事から、引き続き社会的問題は続くと考えられます。

石綿の分析には、大まかに位相差顕微鏡法とX線回折法とがあり、位相差顕微鏡法は光学顕微鏡で石綿のような透明な物質を直接見ることができないため、光の位相をずらし、その位相の差をコントラストに替えて見えるようにして計る方法です。またX線回折法というのはX線を照射し、回折現象を利用して結晶の構造を解析して計る方法です。



転職して間もなく、まだまだ社会人としては駆け出しではありますが、少しでも社会に貢献できるよう引き続き自己研鑽に励みたいと思いますので、これからもご指導ご鞭撻をどうかよろしくお願い申し上げます。

西岡考尚（建設/総合技術監理部門）

～紀宝町へ行きました～
七里御浜を左手にみて、昼前に新宮駅に到着しました。

大阪の設計会社に勤務しますが、年に一、二回、三重県教育委員会の特別講師として理科の授業をさせていただきます。これは三重県技術士会の取組みのひとつであり、わたしもそれに参画して、「岩石の分類」と題し、一、二時間の授業を担当します。小学校からの要請が多いですが、このたびは中学校に行ってきました。相野谷中学です。

相野谷と聞いて、みなさま、ハッと思われたでしょうか。クエスチョンマークの方は、わたしとおなじ此岸の方ですね。

その日は、新宮駅で校長先生に出迎えていただきました。中学校までの交通の便がないからです。食事をいただきながら、さきの被災の話伺いました。

気象庁発表、台風12号の概要は、次の通り。
「8月25日9時にマリアナ諸島の西の海上で発生した台風12号は、発達しながらゆっくりとした速さで北上し、28日には強風半径が500kmを超え、30日には中心気圧が965HP、最大風速が35mの大型で強い台風となった。・・・紀伊半島では総降水量が1000mmを超え、奈良県上北山村アメダスでは72時間雨量が1653mmと国内の観測記録を大幅に上回り、総降水量は1809mmに及んだ。このため、土砂災害、浸水、河川のはん濫等により、和歌山県、奈良県、三重県などで多数の死者、行方不明者が発生したほか、・・・」

ほんとうにたくさんのボランティアの方に来ていただいて、と校長先生がポツリとおっしゃる。わたしは勤務している会社が橋梁の設計などで関わりがあるといい、国道42号の代替路として建設中の紀勢線を、国や自治体は、いのちの道と呼ん



でいます、といった受け答えです。いのちのみち、ほんとうにそうですね、と校長先生が涙ぐまれる。津波の備えは町をあげてやっていたが、と。

それでは校区を案内します、とって車窓から見たものは、今度、わたしの言葉をつまらせる。

三ヶ月以上がたち、でもそこには、依然、まさに天変地異といった言葉がびたりとあてはまるほどの光景が広がっていました。

熊野川からのバックを防ぐはずが上流からの水を排水できず、その計画流量を大きく超えた河口堰の前、大きく車のハンドルが切られる。

支流の相野谷川に国がモデル地区として築造した輪中堤を洪水は難なく越え、町は水没、屋根まで水が襲った。道路沿いの電線は枯れ草を掴み、見上げるその向こうに多くの流木を含んだ土石流が家屋を押し潰している。廃校になった小学校の校舎が目にとまる。あの崖のところで、ちょうど今日教えていただく生徒のひとりも自衛隊に助けられまして、と校長先生。高台にある中学校はかろうじて難を免れ、ついこの間まで避難所になりました。子供たちはみな怖くて震えていまして、そう、水でやられたのですが、断水で水がなくて、それがほんとうに困りました。県道沿いの護岸はえぐられ、保育園は水没して、いまは廃園になったという。水かさがみるみる増えて、ほら、この坂をお年寄りが一所懸命駆け上がって、避難されました。畳が浮いて、天井の間に挟まれ亡くなった方もおられます。ただ、ここはコミュニティーが強く、みんな助けあいまして・・・。

目の前に広がる相野谷の景色に校長先生の説明が重なり、わたしは、自分の不勉強さに胸が締めつけられるような思いがする。ここの子供たちに教えにきたのではなく、教えられにきたのだと思いました。

三年生は少なく十五人ですが、元気で健やかな子供たちです。みな被災し、家もたいへんですが、春にはそろって卒業させることができそうです。毎日、二時間の距離を自転車で通った子もいます。私たち教師はその子が毎日元気な顔を見せてくれるだけでほんとうに喜んでいきます。道は崖崩れの危険があるのでいまでも通行止めですが、そこを通ってきます。

通行止め？ そのような道を往復四時間、自転車を漕ぐのか。

道路など公共事業はマスコミのネガティブな論調もあって予算化や事業の進捗は遅く、もう道はいらない、といったスローガンすらあります。このような話を聞いても、なお、ほんとうに道はいらないといえるでしょうか。

授業は理科室でということで、わたしはパワーポイントの準備を整えます。過疎化で年々生徒が減ります。この人数にこの校舎、広さだけは負けません。避難の際には、きっと心強い施設であったにちがいない。広く高い天井に子供たちの声がかたまして響き、その声がだんだんと強く大きくなります。

笑みを含んだ子供たちの顔が、勢い良く教室へなだれ込んできました。

わたしは背筋を伸ばして、教壇に立つのです。



台風12号の大雨で水没した三重県紀宝町新田地区＝4日午後、共同通信社ヘリから

【産経新聞 2011/9/4 HP より】

今後の行事予定など

次回の例会

日程；平成24年1月28日（土）

場所；じばさん三重 2階研修室7

内容；IT講座、会員2名による講演等
見学会

日程；3月上旬

見学先（予定）；四日市の下水道施設

平成24年度総会・例会

日程；4月21日（土）

場所；ホテルザグランコート津西

内容；総会、三重大学の先生による講演等

【編集後記】

今回は編集が遅れ、皆様大変ご迷惑をおかけしました。

もう一年を振り返る時期になりましたが、今年、一番記憶に残っているのは、9月上旬に紀伊半島を襲った台風12号です。三重県も被災の傷跡は深く、まだまだ大きいですが、早期の復興を願うとともに一人の技術者として復興の一端を担っていきたいと思います。

師走とともに日々寒さが増していますが、皆様方におかれましては、お体をご自愛され、健康でお過ごしになられますよう、心からお祈りいたします。

（寺田）

（社）日本技術士会 中部支部 三重県技術士会
「技術士みえ」発行及び責任者

春田 要一（金属／総合技術監理）

〒511-0828 三重県桑名市立花町 2-13

春田技術士事務所内

TEL&FAX 0594-22-7087

広報委員 寺田 和弘（建設）

土性 弘明（電気電子）